

---

# 狂喜乱舞

エイノジ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狂喜乱舞

### 【Nコード】

N7916Y

### 【作者名】

エイノジ

### 【あらすじ】

893が712を好き過ぎて殺してしまつ。

殺したい程、好きになるといっのは  
こういうことなのだろうか。

目で追って、話しかけて、ドキドキして、笑って、少しでも可愛い  
と思われたかった。  
くだらないこと言いながら笑うあなたの顔に心臓が貫かれるぐらい  
反応していたのは俺の方だけだった。

そうだ、これから俺は少年院に行くのだろうか。  
いやまず、高校をやめさせられて…親は、友だちは俺のことをどう  
いう風に見るんだろうか。

先生達は、「やっぱり」って思っんやろな。

「藤原、、俺、お前のこと好きすぎて殺してもうた

」

## 狂喜乱舞

秋になって、人見知りの藤原も俺のことに慣れてきて  
いつもは押し掛けるだけの俺、今日は家に誘ってみた。

「来いや」

「えっと…」

「何で？来いへんの？」

「…行きます」

「よし、」

威圧から解放すると、「何がよしやねん」ってブツブツ言っただけ  
どそんな小さい事を気にするような男やない。

もっとおおらかにいかんとっ！

…やってられんわ…。

無理にでも笑つとかんと、心がぺしゃんこになって、頭の中はぐし  
やぐしやになる。

気付いたら手エ出したりして、取り返しのつかんことになったり  
する。

藤原。

「なあ、笑わんと聞いてくれるか？」

俺はベッドに、藤原は床に座っている。

「おん、改まって何やねん」

返事はしたが、マンガから目を離そうとしない。

「なあ、藤原？」

「何い、聞いとるよ」

聞いてへん、

それは聞いてへんことに入るねん。

「俺な」

「んー」

「好きやねん」

「おー…」

気のない返事にイラッとする。

「好きやねんなお前のこと」

「んー、んー…」

好きやねんな、藤原のこと。

「ん？…はっ、何言うてんねん」

「何言うてんねんちゃうわ、好きやあ言うて」

「…寝言は寝てから言えや」

ちゃう、本気やねん。

「もー…びつくりしたあ、何の冗談かと思ったあ」

ジョーダン？

藤原、ちゃんと聞けや。

俺のこと、ちゃんと見ろや。

「井本？」

「……っ」

「井本、お前何泣いてっ…！」

「藤原のアホッ…！！」

俺の気持ち知らんと、

伝えてんのに聞かんと、

何を。

しばらく真っ白な天井を見つめていた。

下を見てはいけない。

愛する人が俺のことを異常な目で見たまま止まっている。  
止まって、さらには俺と目を合わせてくれない。

心の中の藤原の範囲は増えていた。

頭の中も一緒。

増えて、増えて、消えた。

少し工作をするぐらいの小さなカッターナイフでも、喉を突き刺せた。

マンガの世界みたいに血がドビュツと出て、  
でも藤原の血液なら、大歓迎だ。

「なあ藤原、今度はホンマに笑わんと聞いてや？」

「」

「俺な、藤原のこと好きやねん」

「」

「めっちゃ好きやねん。もう、おかしなるぐらい」

「」

「藤原：好き、」

「藤原」

そろは俺を狂わせる呪いの呪文。  
。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7916y/>

---

狂喜乱舞

2011年11月23日16時46分発行